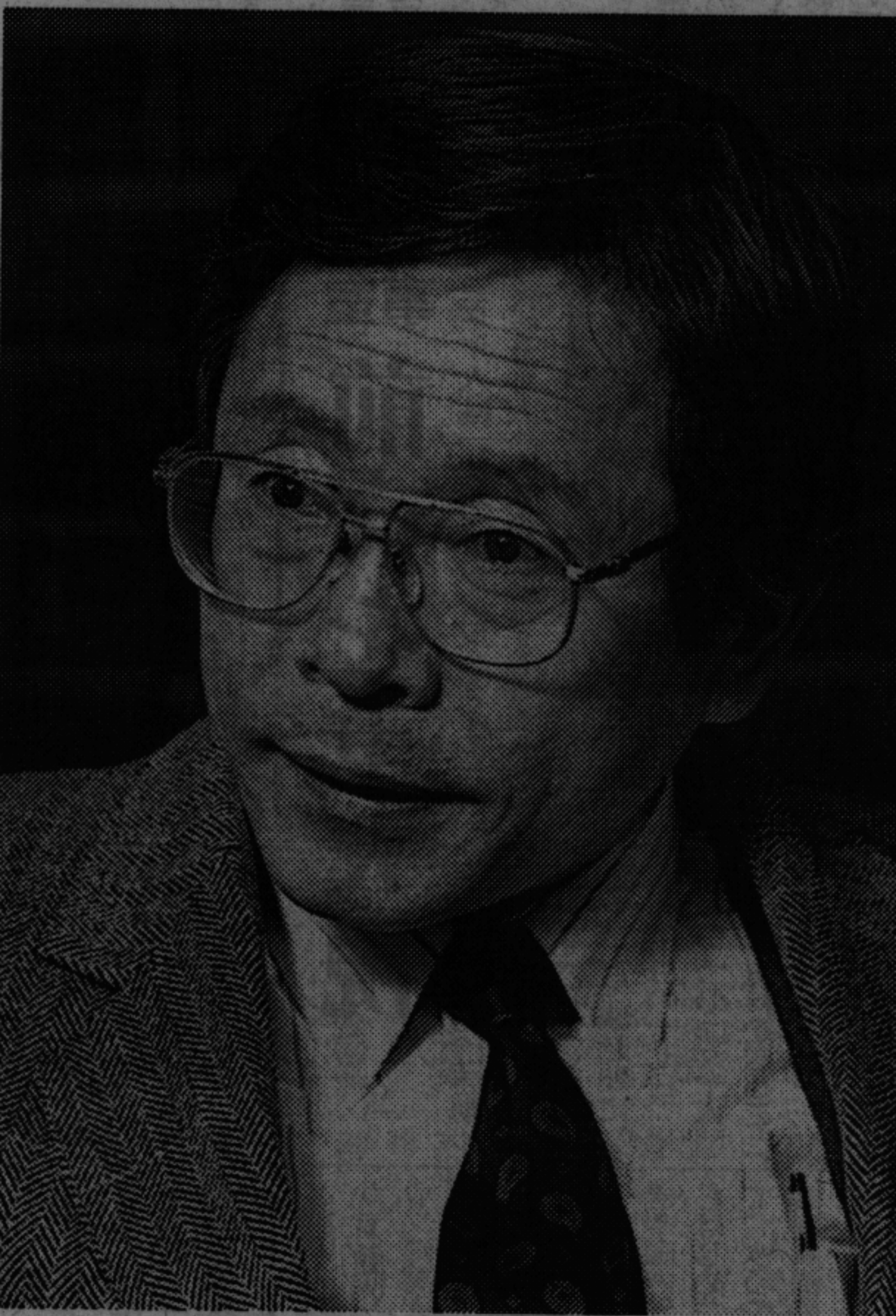


矢吹

晋さん



撮影 若林 昭一

毛沢東以後の中国の最高実力者、鄧小平氏への健康が急速に衰えていることを家族が確認した。十二億の民、五十六の民族を抱える中国の「ポスト鄧時代」は確実に

- 1 基本的に樂觀。後継体制が完成、江総書記に對抗できる人物もいない。
- 2 鄧氏の「改革・開放」政策も全体として支持され、定着している。
- 3 地方の分離傾向は明らかだが独立には走るまい。軍も頻繁な人事異動で抑え込んでいる。失業問題などは慎重な対応が必要。

ポスト鄧小平時代を基本的には樂觀している。毛沢東以後と比べ大きな違いがあるからだ。第一に後継体制が完成している。毛沢東は党中央、軍事委員長のままじくくなった。このため後継者問題が生じた。しかし鄧小平氏はすでにヒラの党員だ。江総書記、中央軍事委員長、国家主席などの要職を全部江沢民氏に握らせた。これまでは重要閣僚の相談に乗ってきたが昨年九月の四中全会（党中央委員会）以降はこれをもめた。江沢民総書記が政治家として持たず、それでは思わないが、そういう人物だからこそ全権限を彼に集中してまともなところとしていく。江沢民体制は一種の危機管理内閣だ。

後継体制完成している

鄧小平後の中国

きるような人物はいない。李鵬首相は天安門事件で国際的なイメージが悪い。蔣石全人代委員長は政法委書記職務をやめ実権からははずれた。李瑞環政協主席も実権はない。朱鎔基副首相は経済で手いっぱい。やり手だけに敵も多い。劉華清軍事委員長は高齢だし、一番右手の胡錦濤氏は次代の指導者候補だ。

海外に活動した民主化運動グループが復活を期待している。葉陽氏（前総書記）には年齢の壁がある。もう七十五歳だ。第二のポイントは政策の方向が決まっていることだ。毛沢東と違って鄧氏は人間の欲望を肯定し、カネのためなりふり構わず働くよう奨励した。中国人にはこの方が合っていた。物価が

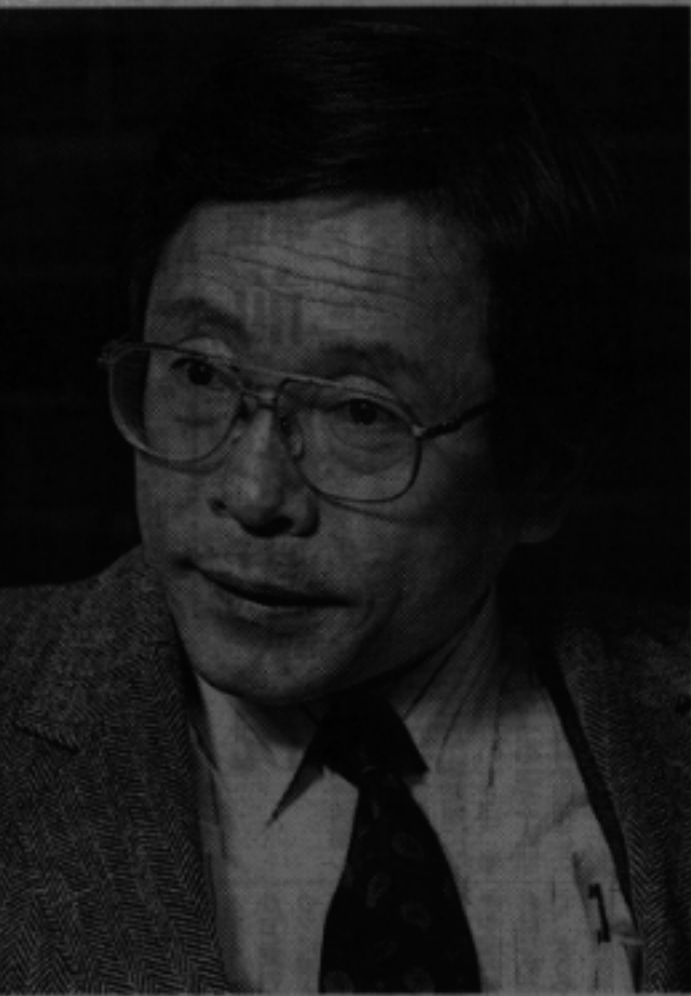
上がったとか文句を言いがら、けこうカネを持ち、いろんな物を買っている。格差の問題もあるが、全体としては今の政策は支持されている。門口開放政策も定着した。全方位外交で世界の市場経済に自らをヒルトインしていく方向は固まっている。

問題は大々さんあるが、正しく対処すれば、暴動のような形で爆発することはあるまい。まず中央政府と地方政府の財政の取り分をめぐる争いだ。市場経済でもうけた広東省などは嫁いだカネを中央に渡したたが、独立に走るようなことはあるまい。内陸部があるから広東省など沿海部も発展してきたからだ。

近付いている。鄧小平以後の中国はどうなるのか、江沢民総書記ら第三世代指導部はこの危機を乗り切れるのか。（聞き手・構成＝論説委員・土田 真晴）

「改革・開放」路線は定着

矢吹 晋さん



撮影 若林 昭一

日曜論争

で人事異動も頻繁にやっている。中央軍事委員は別として六五歳定年制もさかんにとっている。先日も空軍司令官が辞めた。軍内で勢力拡張を図った聶冰氏（前軍機政治部主任）を、かつて以来、軍内で決定的なりダーシップをとれる人物はいない。ドンクリの背比べだ。江総書記は軍事委員長になてから大層に上將を任命した。現在の上將をさらに二十人増し、中將百人、少將八百人の「軍千人体制」づくりをやっている。昇進にあずかった將軍たちは江氏を支持するだろう。天安門事件当時、軍が動揺したのは、指導部が趙紫陽總書記の穩健派と李鵬首相の強硬派を割れたからだ。不満はいつの時代にもある。物価に対する不満は間違った大きさだが、市場経済はもともと自分で責任を負えという体だ。安月給がいやなら、自分で賃上げというわけだ。腐敗の問題にも本気で取りみ出した。先日、密輸をやっていた山東軍区の副司令官が自した。証拠があれば軍区の副司令官だって容赦しない。

（やぶき・すすむ） 欄 誕生まれ。東洋経済新報 本誌時事特別研究員。現代中国論。主要著書に「天安門事件の真相